

例文①

I like **books**

私は本が好きだ。

例文②

The books are on the 2nd floor.

本売場は2階です。

例文①の **books** には冠詞が何も付いていない。

これに対して、例文②の **books** には **the** が付いている。

この違いは何だろうか？

これを考えると、**the** の使い方が分かってくる。

以下、順番に検討しよう。

まず例文①だけど、
book (本) の複数形が books だ。
これに冠詞が何も付いていない状態。

この books という状態は、要するに
本という種類の物 (本全て) を指す
と考えられる。

なので、

I like books.とすれば、

私は（特定の何らかの本ではなく）、

本という種類の物（本全て）が好きだ。

→私は「本好き」だ。

という意味になる。

これに対して例文②

The books are on the 2nd floor.

仮にこれを、

Books are on the 2nd floor.

とすると、**本という種類の物 (本全て)**が2階にある。という意味になる。

これではおかしいので、booksに**the**を付ける。

この the の意味は、**認識の共有の the** と言われている。

認識の共有とはどういうことか？

まずこれはデパートなどの売り場での会話だ。

売り場での会話で books (本) といえ
ば、「それはこのデパートで売られ
ている本のことだね」とお互い認識
を共有している。

その認識の共有をしている場合に **books** の範囲を定める (このデパートの本売場の本) とするのを使うのが **the** だ。

この **the** の使い方をもう少し分かりやすく考えるために、以下の2つの例文の違いを考えてみよう。

例文③ 森の中を歩いていて見かけた標識

Be careful of bears.

例文④ 電車のドアに貼っている指を詰めないように注意してくださいの張り紙

Be careful of the doors.

まず例文③の bears。

bear (クマ) は一般的な認識としては危険な物だ。

なので、bears と冠詞を付けずに、

「クマ (クマ全て) にご注意を」

としても不自然ではない。

これに対して例文④の doors。

door (ドア) というのは一般的には危険な物ではない。なので、認識の共有の the を付けて、「電車のドアに貼っているのだからここでいうドアは電車のドアのことだよ」と認識を共有させるわけだ。

なので、the doors と冠詞を付けて、

「(電車の)ドアにご注意を」

とするわけだね。

最後にもう一つ。

例文⑤

海辺を歩いていて、釣りをしている人を見かけた時にかける定番表現

Are the fish biting today?

今日は釣れますか？

これを検討して終わりにしよう。

まず、**fish** (魚) だけど、**fish** は可算名詞
(数えられる名詞) だ。

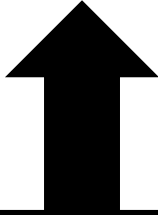
だから、単数形と複数形が存在する。
fish の単数形は **fish** だ。

では、複数形は何かということ・・・
fish だ。

要するに単数形も複数形も形が同じ名詞
(単複同形名詞) だ。

そして、

Are the fish biting today ?



この fish は
複数形の fish だ。

なので、もしも

Are fish biting today ?

と、the が無ければ、

魚という種類の物(魚全て)が、今日は咬んでいますか? となってしまう。

これは少し不自然だ。

なので、fish(複数形)に the を付けて、

Are **the fish** biting today?

今日あなたが釣りをしている辺りにいる魚は咬んでいますか? →今日は釣れますか?

となるわけだね。